CCBJニュースレター　第94号

2022年3月30日

会員の皆様、

国際紛争は疑念や不安感を生じさせるものです。ブラジルは長年にわたり民主主義を実践しており、移民の国であるブラジルでは常に外国からの移民を受け入れる門戸が開かれています。

　今号では、国際協力銀行企画部門調査部の庭田うらら氏に「第33回海外直接投資アンケート調査」の結果についてご寄稿いただきました。同調査では以前からブラジルは成長が見込まれる有望国の一つに挙げられており、今年は日本とブラジル間の交流のさらなる強化が期待されています。

そのほかにも銀行に放置された預金の受け取りに関する情報や、投資誘致のための法律、ブラジルのアグリビジネスに関するデータを取り上げた記事も掲載いたしましたのでご覧ください。

それではどうぞよろしくお願いします。

CCBJ会頭
行徳セルソ

(寄稿)

「わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査報告」
――2021年度 海外直接投資アンケート調査結果（第33回）――

株式会社国際協力銀行　企画部門　調査部
庭田　うらら

株式会社国際協力銀行（JBIC）は、「わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査報告」を発表した。今年度は2021年7月に調査票を発送し、10月にかけて回収した。（対象企業数965社、有効回答数515社、有効回答率53.4％）なお、本調査票は日本の本社に送付し、主に経営企画部、財務部、海外事業担当部署から回答を得ている。

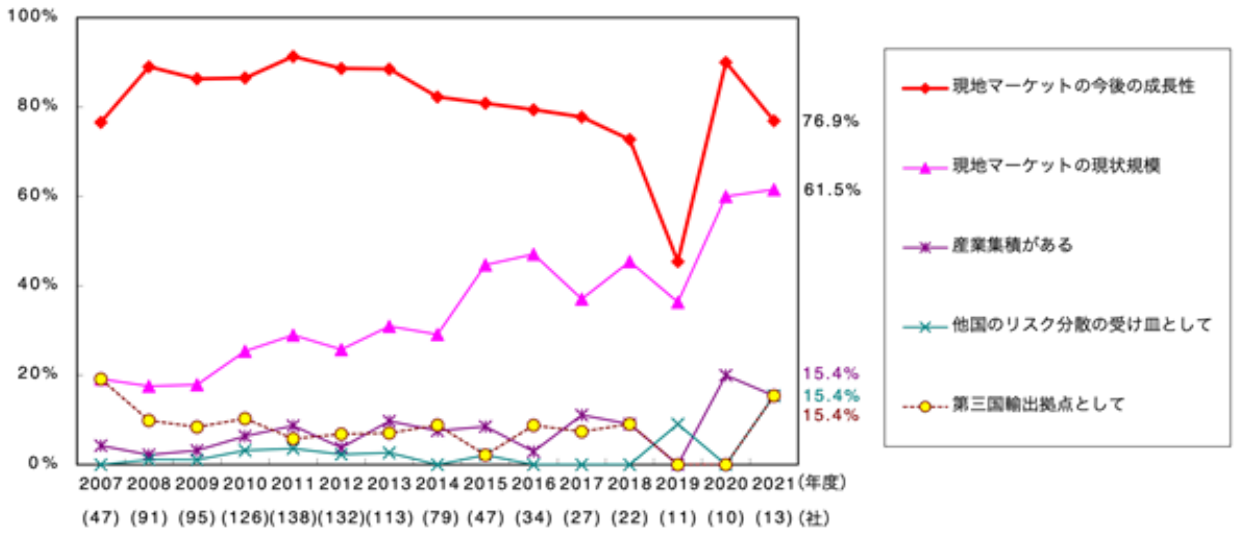
回答企業のうち、ブラジルに生産拠点を保有している企業は49社で、業種別にみると自動車（13社）、化学（9社）、電機・電子（7社）が多い。また、販売拠点を保有している企業は60社あり、業種別では電機・電子（13社）と一般機械（10社）が多い。なお、中国やASEAN諸国と異なり、販売拠点数が生産拠点数よりも多いのはブラジルの特徴といえる。

回答企業に中期的な有望事業展開先国・地域を5か国あげてもらい、ランキングにしたところ、図表1のとおりとなった。

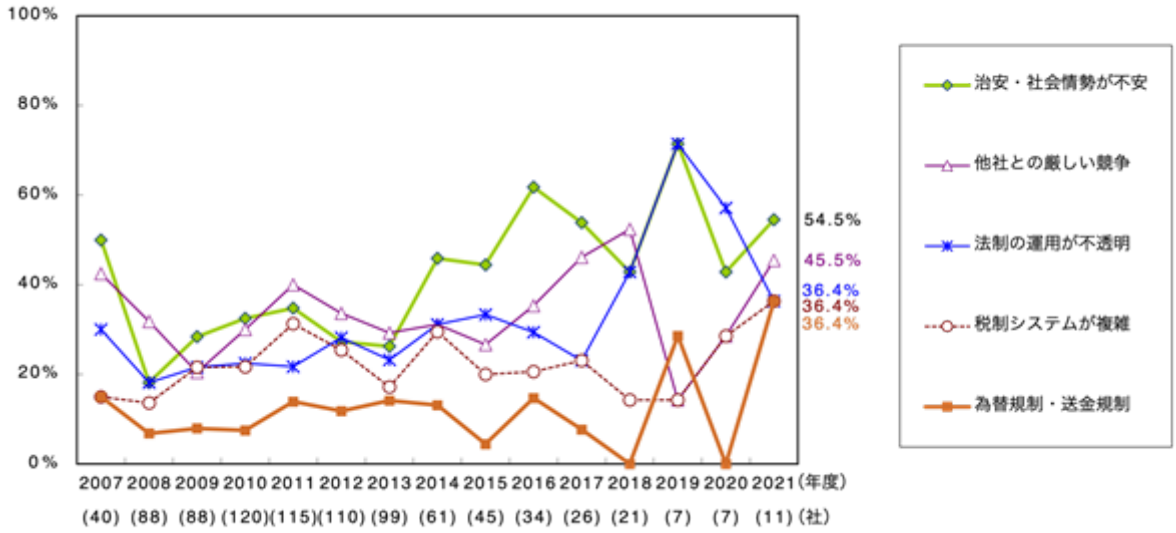
順位			国・地域名	回答社数（社）		得票率（%）	
2021	←	2020	（計）	2021 345	2020 356	2021	2020
1	―	1	中国	162	168	47.0	47.2
2	―	2	インド	131	163	38.0	45.8
3	↑	5	米国	113	98	32.8	27.5
4	↓	3	ベトナム	105	131	30.4	36.8
5	↓	4	タイ	77	111	22.3	31.2
6	―	6	インドネシア	67	96	19.4	27.0
7	―	7	フィリピン	31	37	9.0	10.4
8	↑	9	メキシコ	30	32	8.7	9.0
9	↓	8	マレーシア	27	34	7.8	9.6
10	↑	12	台湾	19	18	5.5	5.1
11	―	11	ドイツ	17	20	4.9	5.6
12	↑	15	韓国	16	12	4.6	3.4
13	↑	16	ブラジル	13	11	3.8	3.1
14	―	14	オーストラリア	12	14	3.5	3.9
14	↑	16	シンガポール	12	11	3.5	3.1
16	↓	10	ミャンマー	10	25	2.9	7.0
16	↓	13	バングラデシュ	10	16	2.9	4.5
16	↑	19	ロシア	10	8	2.9	2.2
16	↑	20	トルコ	10	7	2.9	2.0
20	↑	28	カナダ	7	3	2.0	0.8

（図表1：中期的な有望事業展開先国・地域）

2021年度調査では、中国が首位、インドは得票率で-7.8ポイントの大幅な下落があったものの2位をキープした。調査期間中にデルタ株が猛威を振るったASEAN諸国が軒並み得票率を下げる中、米国と台湾への注目が高まったのが今年の特徴である。この中でブラジルは、13位にランクアップした（ただし、得票率0.7ポイントと微増だった点は留意が必要だろう）。ブラジルを有望視する理由としては、「現地マーケットの今後の成長性」（76.9%）もさることながら、「現地マーケットの現状規模」（61.5%）が高く、有望視する企業は着実に市場を獲得しつつあることを伺わせる（図表2）。また課題は「治安・社会情勢が不安」（54.5%）が最多となったほか、法制、税制、為替規制に関する不安も聞かれ、制度面での安定化が求められる（図表3）。



（図表2：ブラジルの有望理由の推移）



（図表3：ブラジルの課題の推移）

今回、ブラジルは有望国としてのランクアップはあったものの、BRICsの一角として注目された頃に比べればその存在感はやや弱いと言わざるを得ない。まずは新型コロナウイルスの感染を収束し市場の潜在力を発揮させることが重要である。また、（本稿では割愛したが）今回の調査で企業はサプライチェーンの上流に着目した脱炭素への取り組みに積極的であることが分かっている。発電比率の85%が再生可能エネルギー由来であるブラジルの強みを活かし、気候変動対策の面からも魅力を増すような政策がとられることを期待したい。

※2021年度「わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査報告」全文は下記リンクからご覧いただけます。↓
https://www.jbic.go.jp/ja/information/press/press-2021/1224-015678.html

****

ブラジル中銀のサイトで引き出し可能な預金の有無を確認

ブラジル中央銀行のウェブサイトで、個人や企業が銀行に預けたまま放置された状態にある預金の有無が確認できるようになりました。個人の場合はCPF（納税者番号）と生年月日、法人の場合は法人登録番号と開業日を入力すると、預金の有無が照会できます。

詳細はこちら：https://valoresareceber.bcb.gov.br

出所：ブラジル中央銀行

****

ブラジル政府　投資の誘致強化

ブラジル連邦政府は実体経済への支援を後押しするため、新たな証券化の枠組みと農村向け保証強化に関する暫定措置令に調印しました。新たな証券化の枠組みによって、企業による融資の仕組みを強化することで、ブラジルのビジネス環境改善と資本市場や保険市場の発展が期待されます。また農村向け保証強化を定める暫定措置令は、資金調達の手続きや連帯保証の運用の簡易化などにより、アグリビジネスの融資コストの削減につながると見られています。この措置により、複数の生産者が連携して一つの保証で設備機械を購入するための融資を受けられるようになります。

動画はこちら： https://www.youtube.com/watch?v=ZjTbJ7bcNPs&t=56s

出所：ブラジル連邦政府

****

数字で見るブラジル

ブラジルは穀物（米、大麦、大豆、トウモロコシ、小麦）生産で、中国、米国、インドに次ぐ世界第4位の生産国で、世界の生産量の7.8％を占めています。輸出量では世界第2位（19％）で、輸出額は370億ドル（2020年）に上っています。

ブラジル産の大豆や砂糖、コーヒー、鶏肉、牛肉などは新市場開拓を牽引している品目ランキングの上位を占めており、穀物は24カ国、牛肉も24カ国、生きた家禽類は22カ国、鶏肉製品は19カ国への輸出が解禁されています。ブラジル産農産物の輸入が新たに解禁された国は51カ国あり、内訳はアジア24カ国、南北アメリカ18カ国、アフリカ8カ国、オセアニア1カ国となっています。

出所：農牧食料供給省